

主 題：互いに愛のゆえに

聖書箇所：ヨハネの手紙第一 4章7-12節

最近、私たちは暗いニュースを聞きます。特に、家族の問題が多く、子どもが親を殺すなど驚くばかりの心痛む悲しいことです。これらのニュースを聞くといろいろな疑問が出て来ます。なぜ、この時代の家族には愛がないのでしょうか？家族の愛はどこへ行ってしまったのでしょうか？なぜ、無くなったのでしょうか？両親を愛することは当たり前のことではありませんか？どうしたのでしょうか？どうして、子どもたちはそんなに親を嫌い憎むのでしょうか？殺すまでに至ることが不思議です。そして、クリスチャンたちにもお互いにそれほど愛がないのはどうしてでしょう？

今日はIヨハネ4章から、ヨハネがこれらの疑問にどのように答えているのかを見て行きましょう。

#### Iヨハネ4：7-12

- 4:7 愛する者たち。私たちは、互いに愛し合いましょ。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。
- 4:8 愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。
- 4:9 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。
- 4:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。
- 4:11 愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。
- 4:12 いまだかつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。

この箇所は皆さんもう何度も聞いてよく知っておられることでしょう。しかし、私たちがもう一度よく思い出して考えなければいけないこととして、今日、ごいっしょに見て行きましょう。私たちクリスチャンどうしの人間関係でも難しいことがあります。どうしても愛しにくい人がいるかもしれません。だから、ヨハネはこの手紙を書いたのです。このヨハネの手紙第一の中では愛について何回も教えています。メッセージに入る前にその箇所を見ましょう。

#### 2：5、神の愛

「しかし、みことばを守っている者なら、その人のうちには、確かに神の愛が全うされているのです。それによって、私たちが神のうちにいることがわかります。」

#### 2：10、兄弟への愛

「兄弟を愛する者は、光の中にとどまり、つまずくことはありません。」

#### 2：15、世を愛することの間違い

「世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。」

#### 3：1、神のすばらしい愛

「私たちが神の子どもと呼ばれるために、——事実、いま私たちは神の子どもです。——御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょうか。世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです。」

#### 3：11-15、お互いの愛

「互いに愛し合うべきであるということは、あなたがたが初めから聞いている教えです。：12 カインのようであってははいけません。彼は悪い者から出た者で、兄弟を殺しました。なぜ兄弟を殺したのでしょうか。自分の行ないは悪く、兄弟の行ないは正しかったからです。：13 兄弟たち。世があなたがたを憎んでも、驚いてはいけません。：14 私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。それは、兄弟を愛しているからです。愛さない者は、死のうちにとどまっているのです。：15 兄弟を憎む者はみな、人殺しです。いうまでもなく、だれでも人を殺す者のうちに、永遠のいのちがとどまっていることはないのです。」

#### 3：16-20、愛のあらわれについて

「キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。：17 世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見て、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。：18 子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行ないと真実をもって愛そうではありませんか。：19 それによって、私たちは、自分が真理に属するものであることを知り、そして、神の御前に心を安らかにされるのです。：20 たとい自分の心が責めてもです。なぜなら、神は私たちの心よりも大きく、そして何もかもご存じだからです。」

#### 4：7-12、お互いに愛し合うこと（今日の箇所です）

4 : 16 - 18、神は愛である、そして、神の愛は完璧

「私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます。:17 このことによって、愛が私たちにおいても完全なものとなりました。それは私たちが、さばきの日にも大胆さを持つことができるためです。なぜなら、私たちもこの世にあってキリストと同じような者であるからです。:18 愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。なぜなら恐れには刑罰が伴っているからです。恐れる者の愛は、全きものとなっていないのです。」

4 : 19 - 21、神が先に愛された

「私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。:20 神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。:21 神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。」

5 : 1 - 2、父なる神の愛と神の子の愛

「イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。:2 私たちが神を愛してその命令を守るなら、そのことによって、私たちが神の子どもたちを愛していることがわかります。」

私たちの愛に足りないところがたくさんあるから、ヨハネはこのように多くの箇所で愛について教えているのです。今日は4 : 7 - 12を通して、お互いに愛し合うべき理由を学びましょう。

### ☆私たちがお互いに愛し合うべき理由

どうして私たちはお互いにもっと愛し合うことが必要なのでしょう？その理由として三つ上げます。

1. 神がどのような方かに基づく
2. イエス・キリストの十字架のゆえに
3. 神が私たちの心に働いて成長させてくださるから

時間の関係で今日は三つのうちの初めの1. だけを学びます。

#### 1. 神がどのような方かに基づく 4 : 7 - 8

神がどのような方かを学ぶことによって、私たちはお互いにもっと愛し合うことができます。そのことについて四つの面から見て行きます。

##### 1) 愛の意味

8節に「**なぜなら神は愛だからです。**」とあるように「神が愛」だから私たちは愛するべきなのです。7節に「**愛する者たち。**」とありますが、このことばはIヨハネに6回出て来ます。そのうちの4回は愛することについて話そうとしてヨハネはそのように呼びかけているのです。そして、この「愛」はアガペーの愛です。神の愛です。このことは後でもう少し説明しますが、「**愛する者たち**」というのは先ず神があなたたちを愛しているのです、そして、私もあなたたちを愛していますとヨハネは教会の人たちに言っているのです。神の愛とヨハネの愛があるということです。この世に生きている私たちにはいろいろな愛があります。周りの人たち、近所の人たち、また、敵への愛、それらは聖書に書かれています。でも、今日は特にクリスチャンの間にある愛についてヨハネが教えていることを学びます。マタイ5 : 43 - 48を見てみましょう。「『**自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め。**』と言われたのを、あなたがたは聞いています。:44 しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。:45 それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。:46 自分を愛してくれる者を愛したからといって、何の報いが受けられるでしょう。取税人でも、同じことをしているではありませんか。:47 また、自分の兄弟にだけあいさつしたからといって、どれだけまさったことをしたのでしょうか。異邦人でも同じことをするではありませんか。:48 だから、あなたがたは、**天の父が完全なように、完全でありなさい。**」、この世の人たちは、もしだれかが私を愛するなら私もその人を愛しましょうとなりますが、今日学ぼうとしていることは、愛する相手がだれであろうと相手に関係なく、クリスチャンとして私たちがお互いに愛することについてです。なぜなら、ヨハネがこの手紙を書いたとき、教会には偽教師たちが入ってきて、その教師たちは人々を教えながら愛がなかったからです。本物の教師と偽の教師がはっきり分かるためにこの手紙は書かれたといってもいいでしょう。しかし、私たちが神の子なら愛するべきこと、本当の信仰者なら愛することは当然現われてくる、そして、それは一方通行ではなくて神の家族として、イエス・キリストのからだに属する者として互いに愛することは当然であるとヨハネは教えるのです。

##### 2) 愛の源

「**私たちは、互いに愛し合ひましょう。**」と書かれていますが、これには二つの面があります。クリスチャンたちは神の子どもだから愛することは当然である、神を愛しているからお互いに愛することは当然であると。でも、もっともっと愛することができるように努力が必要です。Iテサロニケ4 : 9 - 10「**兄弟愛については、何も書き送る必要がありません。あなたがたこそ、互いに愛し合うことを神から教えられた人たちだからです。:10 実にマケドニヤ全土のすべての兄弟たちに対して、あなたがたはそれを実行しています。しかし、兄弟**

たち。あなたがたにお勧めします。どうか、さらにますますそうであってください。」、9節に記されているように、私たちは愛について書く必要はありません。なぜなら、神が私たちに愛について教えているからです。だから、私たちがもっと愛について書いたり読んだり学んだりする必要はないのです。けれども、最後に「さらにますますそうであってください。」とあるようにもっと愛しなさいと言っています。ヨハネも同じことを教えているのです。愛はアガペーの愛であると先ほど言いましたが、この7-8節に6回出て来ます。私たちが「愛」について考えるとき、文法的には形容詞か名詞ですが、「愛」は動詞です。感情ではなくて行ないです。私たちが心で決めて実行するのです。私たちが罪人であったとき、イエスは神の子であることを捨てて私たちのために十字架にかかってくださいました。私たちに何の価値もないのに神は愛してくださったのです。その神のみわざに倣って私たちも同じように愛することができるのです。相手がどのようなかとは関係ありません。それが神から命じられていることです。この愛は非常に高いものです。自分中心であることより他の人が中心の愛です。この愛をその人がもっているかどうか、どのようにして分かるのでしょうか？その人の行ないによって分かるのです。自分のことを捨てて他の人の最善を考えているなら、それは自分の愛ではなく神の愛です。もちろん、この愛はクリスチャンだけに向けられるものではありません。未信者にも私たちの周りの人たちに対しても同じですが、ヨハネは特にクリスチャンどうしの愛について教えています。そして、現在形であることは、愛することが、はい、やりました、終わりました、ではなく、毎日のこと、日々の習慣として実践されているようにと教えるのです。

このメッセージを準備していて自分の足りないところがたくさん見つかりました。「愛している」つもりですが、この部分、この人に対してはもっと考えなければいけないと。愛のすばらしさについて私たちはもっと考えなければいけません。なぜ、ヨハネが同じことを何度も書いているのでしょうか、それはこの時代の人たちも今の私たちも実行していないからです。ヨハネが教えていることは難しくありません。ことばも文法的にも簡単です。しかし、意味が深いのです。理解するのは簡単ですが、それを実行するのは別です。愛の意味だけでなく、愛の源、愛は神から出ていることを理解しましょう。先に見たように、8節に「**神は愛だからです**」とあります。私たちの愛は神から出ているのです。世の中の愛はそうではありません。私はこの人に愛されたから私もこの人を愛しますというのではなく、自分で決めてその人を愛することです。ヨハネ15：19を見ましょう。「もしあなたがたがこの世のものであったなら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではなく、かえってわたしが世からあなたがたを選び出したのです。それで世はあなたがたを憎むのです。」、私たちの愛は世の人の愛とは違うのです。もう一度、マタイ5：46を見てください。「**46 自分を愛してくれる者を愛したからといって、何の報いが受けられるでしょう。取税人でも、同じことをしているではありませんか。**」、他の人が中心であるこの愛は、自分が犠牲になることで見せてくれた神の愛なのです。イエス・キリストはご自分を捨てて私たちを愛してくださいました。だから、クリスチャンの愛、クリスチャンがお互いに愛することは世のそれとは違うのです。神が愛の始まりであり、神が愛の源です。神はその愛のルートです。たとえば、この川はどこから来たのでしょうか？それはあの山に湖があってそこから水が流れ出てこの川になったのです。私たちの愛はその湖である神から出て来たのです。そして、その愛を神は私たちにくださったのです。

### 3) 愛のある人の特徴

次に、なぜ、神を愛さなければならないのか、愛している人の特徴として二つの面を見ます。(1) 家族の関係と(2) その人の個人的な生き方です。7節には「**愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。**」と書かれています。ヨハネは初めに肯定的なことを言ってから次に否定的なことを言います。ここでも7節と8節はその形です。私たちがなぜお互いに愛し合うのか、それは私たちが神の子、神から生まれたからです。私たちが神から生まれたのは過去のことですが、その過去の経験があって、新しく生まれその経験は今も継続しているのです。それは神がしてくださったことです。だから、私たちは今神の家族なのです。過去に新しく生まれたそのいのちは今も続いているのです。神の家族なら私たちは神に似ているのでしょうか？家族が互いに似ているのは当然のことです。私たちが神と関係があるなら当然似ているはずですが。神は愛だから私たちにも同じ愛があるはずですが。もし、私たちが愛していないなら私たちは本当に神の子なのかどうかよく考えてみなければいけません。

家族の関係だけでなく、個人的に神を知っていること、7節の終わりに「**神を知っています。**」とあります。これは新しく生まれた結果です。私たちが新しく生まれた結果、神と個人的な関係ができたのです。そして、「神を知っている」というのは過去に起こった1回だけのことではありません。毎日、もっともっと神をより深く知って行くことです。昨日より今日はより神を知ったと、そのような関係ができていますか？そして、その関係は成長して行くはずですが。お互いに愛し合うこと、皆さんお分かりでしょうか？どうでしょう？皆さん、お互いに愛し合っておられますか？私たちの愛は両方から愛し合う愛です。このことをもう少し考えましょう。この浜寺聖書教会というキリストのからだにはいろいろな人がいます。

日本人のローアの方々がいます。フィリピンから来ているフィリピン人がいます。中国から、韓国から来ている人たちもいます。アメリカ人もいます。ここにはこのように国は違っても神の家族がいます。私たちがお互いに愛し合うなら皆とコミュニケーションを取るはずです。私たちは周りの人のことを知っていますか？話をしていますか？話ができますか？手話であいさつできますか？タガログ語でできますか？韓国語、英語…、ある人はそれは無理、できないと言います。でも、小さなことでも神の家族ならすべきです。私が高速道路を走って料金所でお金を払うとき、係りのおじさんはほとんどの人が「サンキュウ」と言います。私とコミュニケーションを取ろうとしてくれます。あいさつするだけでもお互いにうれしいものです。神の家族ならなおさらこれは当たり前のことです。私の一番下の息子はローアの方々のこと、耳が聞こえないことがまだ分かりません。けれども、私たちの大好きな方々に彼は「あのねー、…」と追いかけて行って「おはようございます」の手話（一瞬）をします。喜ばれます。上手でなくてもいいのです、お互いにそのような努力が必要ではないでしょうか？それができなくてどのように愛することができるでしょうか？コミュニケーションが取れていないのにどうして私たちは神のからだになることができるでしょうか？「お互いに」というのは両側から、両方から愛することです。私たちは努力しなければなりません。周りの人たちの名前と顔、戦っているところ、弱いところ、祈りの課題など、知っていますか？知っているはずです。私たちは神の家族です。弟子訓練について、テトスの手紙2：3-5で年輩の女性が若い女性を教えることをこのように教えています。「同じように、年をとった婦人たちには、神に仕えている者らしく敬虔にふるまい、悪口を言わず、大酒のとりこにならず、良いことを教える者であるように。：4 そうすれば、彼女たちは、若い婦人たちに向かって、夫を愛し、子どもを愛し、：5 慎み深く、貞潔で、家事に励み、優しく、自分の夫に従順であるようにと、さとすことができるのです。それは、神のことばがそしられるようなことのないためです。」と、このような関係が必要です。これは一つの例です。

#### 4. 愛のない人の特徴

8節に「**愛のない者に、神はわかりません。**」とあります。ここには神を知っている人と神を知らない人、愛をもっている人と愛をもっていない人、この二種類の人しかいません。愛をもっている人は神を知っており、神から生まれ神と個人的な関係があります。愛をもっていない人は習慣的に自分中心で他の人を愛していない状態が続いています。そして、神のことも知りません。一度も神のことを知ったことはありません。ヨハネはそのようにはっきりと書いています。神を知らないからこの愛も知りません。愛がないから神も知らないのです。シンプルなことですが意味は深いのです。「**なぜなら神は愛だからです。**」、これが今日のメッセージの基本です。ダイヤモンドをいろいろな角度から見るとしてその色や輝きはいずれも同じようにきれいです。神は聖なる方、赦す神、光の神…とさまざまな神の特徴がありますが、その中で基本となることがいくつかあります。それらは聖書に書かれています。ヨハネ4：24「**神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。**」、Iヨハネ1：5「**神は光であって、神のうちには暗いところが少しもない。これが、私たちがキリストから聞いて、あなたがたに伝える知らせです。**」、Iヨハネ2：29「**もしあなたがたが、神は正しい方であると知っているなら、義を行なう者がみな神から生まれたこともわかるはずです。**」、神は霊、神は光、神は正しいとあります。最後に、今日の箇所、Iヨハネ4：8「**愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。**」、これらが神の特徴の基本となることです。ですから、私たちがこのような神の子どもであるなら、その特徴が似ているはずで

お互いに愛し合うこと、神の子どもとして自然に出てくることもあります。もっとお互いが努力してこそ生み出される神の愛があります。アメリカの賛美歌にこのような歌詞があります。「もし、私たちがキリストのからだなら、なぜ、手が動いていないのですか？もし、私たちが本当にキリストのからだなら、どうして、私の足が動いていないのですか？もし、私たちが本当にキリストのからだなら、なぜ、神のことばを語っていないのですか？なぜ、神の愛を皆に正しく伝えていないのですか？」、このような私たちクリスチャンへの強いチャレンジがあります。キリストのからだなら私たちがお互いを愛することは当然です。